

BUSINESS

リーダーになる!

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智 ■ リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第69回 人間は感情の動物

上司として部下と向き合うとき、理論や理屈ばかりではなく、心を込めましょう。本気でぶつかり合える土壌をつくりましょう。

理論や理屈は不要
心で話すと心に響く

「頭で話すと頭に響く、心で話すと心に響く」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。上司と部下のコミュニケーションもまさにこの言葉通りといえます。「上司なんだから、こんな心構えで部下と向き合わなければ…」、「コミュニケーションをとるときには、コーチングの手法を取り入れて…」などと、部下

とかかわる上で、理論や理屈をいくつも学んでいる上司も多いかも知れません。もちろん、それらの理論やノウハウは有効なので、たくさん学んで、現場でどんな生かしていくのは一つの手段です。しかし、理論や理屈といったものすく横には、「感情がある」ということも決して忘れないでください。

本来、人間は感情の動物です。ですから、どんなに素晴らしいスキル、優れたテ

クニックがあつたとしても、そこに感情が流れていなければ、人は動きません。人と人のかかわり合いは、本来「魂と魂のぶつかり合い」です。上司が部下と関わり合うときにも、本気でぶつかることが大切です。本気でぶつかって、上司と部下の心が共振していることが重要なのです。

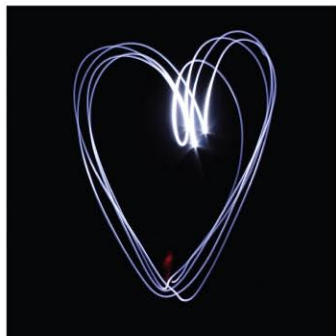
本気でぶつかり合う
心の「共振」が重要

本気がかかわり合うと言つても、上司だけが熱くなっているようでは大問題です。伏せたコップに水を注いでも、一向に水がたまらないのと同じように、部

下の心のコップが伏せられている状態では、どんな思いもどんな言葉も部下の心に届きません。まずは、部下の心のコップを上に向かせてあげなければなりません。そのためにも、普段から部下とコミュニケーションをとって、信頼関係を築いておくことが肝要です。

部下との関係ができていて、心のコップを上に向かせてあげた上で、初めて上司の言葉が部下の心に届くのです。

部下と話をしているとき、「部下の心のコップが上を向いているか」、「自分の



話が、論理や理屈ばかりで、心が入っていないのではないかとという点をチェックしてみてください。本来、感情の動物である人間に、理屈ばかり話しているとしたら、伝わらないのは当然の結果なのです。
（『上司のルール』より転載）